

■ 国際災害チャータ

国際災害チャータは、正式名は「自然または技術的な災害時における宇宙施設の調和された利用を達成するための協力に関する憲章」(Charter on Cooperation to Achieve the Coordinated Use of Space Facilities in the Event of Natural or Technological Disasters) といい、1999年に欧州宇宙機関(ESA)及びフランス国立宇宙研究センター(CNES)が提唱した、大規模災害時に宇宙機関の衛星データをユーザへ提供する国際協力の枠組みである。参加宇宙機関間は無償の国際協力として、「最善の努力ベース」で協力を行っている。JAXAは、2005年に正式加入し、「だいち」による観測データ提供による協力体制を構築、国際災害チャータへの貢献として、2010年1月13日に発生したハイチ地震や、2010年12月6日に発生したコロンビアの洪水などで「だいち」のデータによる有効な情報を提供している。

2011年9月時点において世界の宇宙機関12機関が参加、また2機関が参加手続き中であり、その輪は宇宙機関にとどまらず、ますます広がっていくことが期待されている。

参加機関及び主な衛星(2011年9月現在)

参加機関	主な利用衛星	センサの種類及び空間分解能
欧州宇宙機関(ESA)	ERS-2 ENVISAT	合成開口レーダ: 30m~1km
仏国立宇宙研究センター(CNES)	SPOT シリーズ	パナクロ: 2.5~5m マルチスペクトル: 10m~1km
カナダ宇宙庁(CSA)	RADARSAT-1,2	レーダ: 3~100m
インド宇宙研究機関(ISRO)	IRS シリーズ	パナクロ: 2.5m マルチスペクトル: 24~523m
米国海洋大気庁(NOAA) 米国地質調査所(USGS)	POES, GOES, Landsat	パナクロ: 15m マルチスペクトル: 80~1.4km
アルゼンチン国家宇宙活動機関(CONAE)	SAC-C	パナクロ: 35m マルチスペクトル: 175m
宇宙航空研究開発機構(JAXA)	「だいち」 (ALOS)	パナクロ: 2.5m マルチスペクトル: 10m 合成開口レーダ: 10~100m
DMC インターナショナル・イメージング(DMCii)	DMC (Disaster Monitoring Constellation)	パナクロ: 12m マルチスペクトル: 32m
中国国家航天局(CNSA)	CBERS シリーズ	パナクロ: 2.7m~80m マルチスペクトル: 20m~258m
ドイツ航空宇宙センター(DLR)	TerraSAR-X	合成開口レーダ: 0.6~19.2m
韓国航空宇宙研究院(KARI)	Kompsat-2	パナクロ: 1m マルチスペクトル: 4m